2026 年 3 月 1 日

Value Management Innovation
株式会社ブイ・エム・アイ総研

「活・人・経・営®」コラム第 115 回

＜仕事と人生＞

先般、2 月 8 日に衆議院議員選挙が行われ、与野党の議席数が大きく変動しました。政治、経済、社会、技術などは企業経営のマクロ外部環境変化要因として位置付けられています。主な事例として、政治的要因では選挙後に様々な法規制が見直される可能性があり、経済的要因では為替レートの推移、社会的要因では少子高齢化の進行、技術革新の要因としては生成 AI の出現、等々です。

経営を前に進めるためには、マクロ・ミクロを問わず外部環境変化の情報管理を欠かせませんが、昨今デジタル化が進み、取得できる情報量は急激に増えています。これら多量の情報を吟味して競争力の向上に生かすためには、変革を自主的に担える人材を人財と捉えて、「人づくり」を経営テーマのポイントに掲げる企業が増えています。人財開発の視点です。

古典的ではありますが、マズローの仕事に対する欲求五段階説の最下位は生きるため（食べるため）の物質的欲求で、最上位は精神的要素が強く、自己実現（夢の実現や生きがい、楽しさを感じる）の欲求です。このように仕事に臨む動機には個人差があるものの、仕事を通して学ぶ知識・知恵や、人との出逢いがもたらす価値は大きく、積極的な目標に挑戦し、多くの困難を乗り越えて得られた成果は組織への寄与だけでなく、自己の成長を自覚出来、人生における自信や希望をもたらします。又、世の中の多くの仕事そのものが社会貢献に寄与しています。

ちなみに 2006 年から 4 年間、経団連の会長を担当され、現在もキャノン㈱CEO の御手洗冨士夫氏は、日経朝刊「私の履歴書（2026/1/31 版）」で、『人生は楽ではない。しかし楽しい。大事なのは、苦しくとも自分が決めたゴールに向かって進むことだ。その努力のなかに生きがいがある。だからこそ、人生は楽しいのではないか』と、述べています。

＜組織は絶好の学びの場＞

人生から何を得るかを問い、得られるものは自らが投じたものによることを知ったとき、人は人として成熟する。組織から何を得るかを問い、得られるものは自らが投じたものによることを知ったとき、人は人として自由になる。
― 出典：「実践するドラッカー【行動編】」上田 惇生 監修 佐藤 等　編著―